







魯西亞牛痘全書卷之下

陸侯氏回書

長崎

譯官馬場貞由

譯

三河

仙庵利光瓊大政

校

牛痘ノ種法ヲ拒ミ誹謗スルノ辨

牛痘ヲ種ルト雖凡自然ノ流行ヲ防キ免ルヲ能
ハスト。或ハ筆記レ或ハ口ニ唱ルモノアリ。是レ
試験ノ至ラサルモノナリ。即チ其徒ニ實證ヲ示
サン。トセン子ル人名ノ證書ニ曰。牛痘ヲ種テ後其

人ヲ二十五年。或ハ二十七年。或ハ三十五年ノ間。自然流行ノ痘ヲ發シタル者ノ中ニ交ラシメシト雖凡更ニ傳染セシコナシト。ケルワクト云ノ者モ亦是ト等キ試験アリ。諳厄利亞ニテハ商家并ニ牛ノ乳ヲ販ク婦人ノ中ニテモ多ク小兒ニ試テ再ヒ傳染スルコナキヲ知ル。ホルステイン^地名ノ中ニテモ是ヲ綿密ニ試テ再ヒ傳染ノ患ナキコノ證書ヲ送タリ。其書ニ曰。牛痘ヲ種ルハ甚

タ近新ノ術ニシテ。未タ試験少シト雖凡其妙功アルコト明著ナリ。是ヲ多ク試サル者ハ信用淺ク。又人ニモ此術ノ妙功アルコト示サス。愈此法ヲ疑念スルモノハ愈其實ヲ失ヒ。却テ已ニ害ヲ招クモノアリト。嘗テ諳厄利亞ニ於テ十萬人ニ牛痘ヲ種シ時。其中八千人ハ種法宜シカラサルカ。後再ヒ自然痘ニ感セリ。然レ凡餘ノ九萬二千人ハ更ニ感スルコトナク全ク免タリ實驗シテ其妙

功アルヲ斯ノ如シ。然ルヲ誰カ是ヲ疑ヒ誰カ是ヲ信セサランヤ

此外ニモ信スヘキ試験アリ。此妙術ヲ信セサル者ノ為ニ是ヲ記ス。

ロント^ント^ン 瓊按スルニイキノ痘瘡病院ノ醫者ウ

一テウ井^リ 按スル 群居シタル小兒ノ中ニ人痘

ト牛痘トヲ同時ニ種エ試シニ。他人ニ傳染セシ
ト絶テナシ。期ノ如ク人牛二痘ヲ每人一同ニ種

エ試タル者。一千余人ニ及フ。

又ロント^ント^ンノ病院ニ於テ十萬人ニ牛痘ヲ種エ

試タルニ。再ヒ感シタルモノ一人モナシ。ゲレリ

ト。トセ^ン子^ル 人名ト云フモノ。一百二十六人ニ牛

痘ヲ種エ。其後此中ノ七十三人ヲ衆醫ニ託シ。數

種ノ人痘ヲ種エシメシニ。再ヒ其人痘ニ感シタ

ルモノ一人モナシ。

此他諸厄利亞國中ニ於ハ。牛痘ヲ種エ試タルモ

ノ最モ多シ。然レ凡其事ノ沈長ナル故ニ略ス。

巴バ里レ斯ス 瓊按スル一歐ニ於テモ前條ノ如ク種々

ニ試タリ。即チ此地ノ醫學館ニ於テハ一人ニ四

度マテ種工試タルニ。一度ニ其功ヲ奏シテ後ハ

少モ再感セシナシト云フ。

又「レイレ河ハ 瓊按スルニ歐羅ノ近傍。「レイムス及

「レロンレ 按スルニノ海濱ノ諸地等ニ於テハ何レ

モ其地ノ醫學館ニ於テ。有司ノ目前ニ是ヲ種工

試タリ。

蘓ス亦エ齊レ亞ヤ 瓊按スルニ歐ニ於テモ種々ニ試タリ。

又「レウレエレナレ「レベルレリレ「レカンレノレウレエレ「レフラレウンレ

ウレエレイレクレ 按スルニ等ニテモ皆學校ニ於テ試タ

リ。此他熱爾瑪亞ニ於テハ。狹郡ハ縣ニ至ルマテ

是ヲ試タリ。我魯西亞國ハ固ヨリ論ナシ。「レリレフラ

ンレトレ「レエレストレリレヤレンレテレイレ「レピレンレリレヤレンレテレイレ 按スル

名レニ至マテ皆其地ニ於テ是ヲ試タリ。此他是ヲ

地レニ至マテ皆其地ニ於テ是ヲ試タリ。此他是ヲ

試タル所ノ地名枚舉ニ違アラス。

我魯西亞ノ醫學館ニ諸邦ヨリ牛痘ヲ種テ奇功

ヲ得タルノ誥文夥シク來ル。又「ダムホウ」按スルニ地名

ニ於テハ小兒六百人ニ牛痘ヲ種エ。其功成テ後

再セ是二人痘ヲ種エシニ。是ニ感シ發シタル者

一人モナシト云フ。或人誹謗シテ曰。若シ牛痘ヲ

種テ發セサル時ハ。其毒體內ニ留リ後必ス病ヲ

發スヘシト。然レ凡既ニ前ニ辨スル如ク。生ナカ

ラ痘毒ヲ具有スルモノニ非ス。是レ嘗テ人痘ヲ

種テモ人ノ知ル所ナリ。其毒按スルニ毒ノ字穩

言ハ痘氣ヲ感受スヘキモ當ナラサルヲ覺フ。體中ニ具有セサル人

ニハ種テ發セサルナリ。又微熱ヲ發シテ少シ

ハカリ痘ヲ發スル者アリ。又發セサルモアリ。發

セサレ凡此モノ後ニ痘瘡ヲ患シナシ。斯ノ如

キ誹謗ハ候國ノ「ゴロチエス」按スルニ地名及

ヒ此他ノ諸邦ニテ牛乳ヲ取扱フモノ。何レ凡壯

健ナルヲ見ル片ハ。取ニ足ラサル説ナルヲ知ヘシ。又コルシテニスメクレンフルカ。按スルニ及並ニ地名ヒ此他ヨリモ頃日牛痘ノ奇功アルヲ誥ケ来リ。然ルニ「マルクフランテンフルキ」按スルニ地名ニ於テ最モ笑フヘキ愚説ヲ發スル者アリ曰。若シ牛痘ヲ種テ表發セサル片ハ其毒體中ニ於テ增長シ終ニ痘瘡ヲ發スルカ又ハ他ノ病ヲ生スヘシト。是レ辟説ノ最モ甚シキモノト謂フヘシ。

若シ牛痘ヲ種タル者悉ク病身トナル片ハ。自然流行痘ヲ患ヒシモノ。或ハ人痘ヲ種タル者モ共ニ病身トナルヘキノ理ナリ。然ルニ曾テ人痘ヲ種テ人命ヲ助ケ壯健ナラシメシヲ舉テ數フヘカラス。然レモ馬ンソ牛痘ノミ其毒體中ニ殘テ其人ヲ煩ハシムルノ理アラシヤ。又牛痘ヲ種ルト雖モ後再ヒ自然流行痘ヲ患フト云フ説アリ。自ラ子ヲ愛スルノ雙親。是ヲ聞テ

ハ怖ルコト尤ナリ。然レモ牛痘萬金ノ奇功アルコトヲ能ク説キ示サハ。忽チ其虚説タルコトヲ知テ信用スルニ至ルヘシ。又後ニハ人ヨリ人ニ謂ヒ傳テ終ニハ弘ク世ニ行ルニ至ルヘシ。此術ノ不正ナルカ。或ハ是ニ由テ害ヲ招クコトアルカ。又ハ假症ノ牛痘ヲ真症ノ牛痘ト心得テ數用ヒ誤シ等ノコトハ。既ニ官ヨリ查照アリテ明カナリ。今新ニ辨スルニ及ハス。實ニ此新法ヲ誹ル徒ハ人ノ壯健ヲ損ハシムルノ敵トモ謂ツヘシ。既ニ明察ノ人ハ其誹評スルコトノ及テ非ナルヲ知ルヘシ。世ニ誹言流布スル片ハ自ラ此法ヲ施ス害トナレモ。已ニ是レマテ此新法ヲ施サレタル者ノ壯健ナルヲ流布スル片ハ自ラ止ムヘシ。且其虚言ヲ吐タル者ハ漸ク耻ルニ至ルヘシ。臆説ヲ述テ已カ賢者タルコトヲ顯サント欲スルノ徒ハ。實ニ歎息スヘキモノナリ。

健ヲ損ハシムルノ敵トモ謂ツヘシ。既ニ明察ノ人ハ其誹評スルコトノ及テ非ナルヲ知ルヘシ。世ニ誹言流布スル片ハ自ラ此法ヲ施ス害トナレモ。已ニ是レマテ此新法ヲ施サレタル者ノ壯健ナルヲ流布スル片ハ自ラ止ムヘシ。且其虚言ヲ吐タル者ハ漸ク耻ルニ至ルヘシ。臆説ヲ述テ已カ賢者タルコトヲ顯サント欲スルノ徒ハ。實ニ歎息スヘキモノナリ。

不知案内ノ徒問テ曰。種痘ニハ人痘ヨリ牛痘ヲ
 勝レリトスルヤト。此徒ニ其疑ヲ散セシムルノ
 一語アリ。即チ自然流行ニ因テ發スル痘ノ膿汁
 ハ濃ク。牛痘ノ漿ハ薄クシテ水ニ近シ。是ニ由テ
 其勝劣ヲ知ルヘシ。何トナレハ未タ牛痘種法ノ
 發明ナク。專ラ人痘ヲ種ル頃ニ「スト」按スル及
 人名ニ
 此他ノ良醫曰。種痘ニ用ユル人痘ノ膿汁ハ成
 タケ薄キヲ撰ミ用ユヘシト。又達術ノ一醫ノ著

述ニ曰。種痘ニ用ユルニハ薄キ膿汁ヲ良トス。濃
 キ膿汁ヲ用ユ可カラス。薄キ膿汁ヲ取テ種ル片
 ハ發熱ノ勢甚タ輕シト。此濃薄ノ論ヲ以テ牛痘
 ト人痘トノ損益ヲ説ク片ハ。其理ヲ會得セシム
 ルニ甚タ易シ。
 或人曰。人痘ハ全身ニ發シ。牛痘ハ唯其種タル處
 ノミニ發スルカ故ニ甚タ安心ナラスト。考フル
 ニ知覺アル薄キ表皮ノ上ナレハ。一處ノミニ發

スルモ全身ニ發スルモ其理一ナリト見ユ。又一
說ニ曰。獸畜ノ痘ヲ人ニ移スヲ願フヘキ事ニ非
ス。且又人痘ニモ善惡ノ二症アリ。牛痘モ亦善惡
ノ差別ナクシハアル可カラスト。然ルニ予等其
善惡ノ差別ナク。唯真ノ牛痘ノミヲ撰ミ用ユル
ニ毎ニ良功ヲ得タリ。

人痘ヲ種テモ牛痘ヲ種テモ。二三日ハ其功見レ
ス。二三日ヲ經テ其種タル處ニ焮熱ヲ生シ。且全

身ニモ發熱ス。是レ痘氣ノ全身ニ及ヒタル徴ナ
リ。痘發シテ後期日ヲ定テ熱シ。且落痂スルヲ人
痘牛痘トモニ異ナルヲナシ。然レモ牛痘ハ種々
ル數程ニ發シテ其他ニ生セス。人痘ハ多少アリ
ト雖モ全身ニ發ス。是レ牛痘ト人痘トノ差別ア
ル所以ナリ。一度ヒ人痘ヲ種タル人ニ牛痘ヲ種
ルニ發スルヲナク。又牛痘ヲ種タル人ニ人痘ヲ
種テモ更ニ發スルヲナシ。但シ種テ一度ニ發シ

終リタル者ニ。再ヒ種テ稀ニハ少シク生スル勢ヲ顯ス。アレモ最モ輕シ

或ハ人ヲ驚怖セシメントレテ曰。若シ新法ノ牛痘ヲ種ルギハ。牛ノ煩フヘキ病毒悉ク其人ニ傳染シテ。即時ニハ發セサレモ漸次ニ之ヲ發スヘシト。此等ノ誹謗ハ論スルニ足ラス。ゴロチエステルス。及ヒ「ゴルステイ」瓊按スルニ並ニ地名牛乳汁ヲ搾リ取リ販クノ土人ヲ見テ知ルヘシ。牛ノ病マテ其人處ナリ

ニ傳染シタルヲ其中ニ一人モナシ。又牝牛ニ痘

ヲ發シタル時ハ。唯乳汁ノ出ルヲ常ヨリ少シク

減スルノミ。自註。乳頭乳房ニ小痘ヲ發シタルカ故ナリ。ニテ痘後他病

ヲ發スルヲナシ。但シ獸畜ノ諸病中ニ於テ他ニ

傳染スル病ハ。角アル獸ノ疫癘。馬ノ「サツ」自註。鼻ヨ

リ水液出テ終ニ牝羊ノ疥癬。犬ノ小瘡等是ナリ。

此等ノ諸病ト雖モ同種屬ニ傳染スルノミニテ。

他ノ種屬ニ傳染スルヲ絶テナシ。

若し牝牛ヨリ直ニ痘漿ヲ取り種ルヲ恐ル徒
 ハ。今既ニ諸邦ニ於テスル如ク。牛痘ヲ人ニ移シ
 テ發シタル其痘漿ヲ取テ種ヘシ。同功ヲ奏スル
 ナリ。假令牛ヨリ取テ直ニ人ニ種ルト雖凡馬ン
 ソ牛ノ餘病ノ毒氣共ニ移リ。且其氣存シ年ヲ經
 テ其病發スルノ理アラシ。若シ其理アル凡ハ牛
 肉ヲ食ヒ牛乳ヲ飲ムモノハ。皆牛ト同病ヲ煩フ
 ヘキノ理ナリ。此他牛痘ヲ誹謗スルノ說許多ア

リト雖凡。前ニ辨スル說ニテ其理明カナルカ故
 ニ此ニ贅セス。

牝牛痘瘡ノ真假ヲ分別スル法

牝牛ノ痘瘡ニ真痘ト假痘トノ二種アリ。其真痘
 ハ乳房ノ上ニ小班ヲ發ス。其周圍正カラス。色青
 クシテ初ヨリ鈹色ニ似タリ。中ニ薄キ水ニ似タ
 ル酷厲ノ傳染浸蝕スヘキ液アリ。邊圍焮熱アリ
 テ赤クロトス。瓊按スルニ漢人ノ如シ。其瘡漸ク
所謂丹毒ノ類

浸蝕レ孔ヲナシ。其薄液膿ニ變レ痂トナル。痘牛此間ハ食ヲ欲セス。氣鬱レテ乳汁ヲ出スレ少シ。終ニハ乳房ニ痛ヲ覺テ絞ルヲ嫌フ。故ニ乳汁ヲ取ルヲ能ハス。

牝牛痘瘡ニ因テ死スルヲナシ。之ヲ他ノ牛ニ傳染スルハ乳汁ヲ絞ル人ノ手ヨリレテ移スナリ。即チ痘牛ノ乳ヲ絞リ其手ヲ以テ他ノ牛乳ヲ絞ルハ忽チ移ルナリ。牛室中數多ノ牛アリト雖

凡。乳汁ヲ絞ラサル牛ニハ固ヨリ痘ノ傳染スルヲナシ。故ニ痘ヲ發レタル牛ハ之ヲ撰ミ出シテ別ニ取扱フヘシ。

人間ノ疱瘡ニ真痘ト假痘トノ二種アルカ如ク。牛痘ニモ真假ノ二種アリ。是ヲ分別スルノ法左ノ如シ。

真性ノ牛痘ハ。其色青クシテ鉉色ノ如シ。

假性ノ牛痘ハ。其色鉉ノ如クニアラフ。又其處焮

熱セス。口_一見_{註前ニ}ノ状ヲ顯ス_一ナシ。

假性ノ牛痘ハ。速ニ乾キ忽チ痂トナル。是ニ反シテ真性ノ牛痘ハ。腫起シテ定例ノ日數ヲ經テ。且焮熱等去タル後ニ非サレハ乾キ痂トナル_一ナシ。又假痘ヲ發シタル牛ハ健ニシテ常ニ變セス。氣鬱スル_一ナク。能ク食物ヲ食フ。又乳汁ヲ出ス_一モ常ニ異ナル_一ナシ。

牛痘ヲ種テ發スル諸症

真性ノ牛痘ヲ種ルニハ。體中ノ一處ニ傷ツケテ是ニ牛痘ノ膿汁ヲ取テ塗ルカ。又ハ體中表皮ノ最モ薄キ所ヲ直ニ痘牛ノ乳房ニ接スヘシ。乳汁ヲ絞ル者ニハ指頭。或ハ指ノ折目等ニ傳染スル_一アルナリ。痘氣既ニ傳染スレバ。其處ニ焮熱火傷シタル如キ小泡ヲ發シ速ニ膿ヲ生ス。其泡ノ形圓ク。周縁高ク中凹クシテ青色ヲ顯ス。是ヨリ痘氣周身ニ及フ。故ニ脇下ニ痛ヲ發シ_レセ_レセ_レス_按

ルニ「ギリール」ナランカ。瓊按スルニ醫軌提綱ニ腺ト譯スルモノ。腫レ。寒熱往来シ。脉疾ク。全身懈ク。四肢痛ミ。頭痛或ハ嘔氣アリ。人ニ因テ精神昏冒スルモノアリ。此諸症イカホト劇シクトモ少シモ危キナシ。三四日ニシテ悉ク去ナリ。唯其種タル處ニ液ヲモチタル泡ヲ殘スノミ。是レ亦漸ク窪ミ終ニ愈ユ。但シ其起張シタル處ヲ他ノ處ニ附着スル片ハ其處ニ泡ヲ發スルナリ。

牛痘ヲ種テ發スル所ノ諸症右ノ如シ。少シモ後ニ患ヲ遺スナシ。但シ「テ」子ルニ按スル曰。寒熱往来等去タル後ニ手ニ至小ノ班瘡ヲ發スルナリ。然レ此是ハ膿ヲ生スルナシ速ニ消散スルト。予等數牛痘ヲ種エ試ルニ。時トシテハ此ノ如キモノアリ。

牛痘ノ能力

牛痘ノ種法ヨリ先ツ爰ニ其能力ヲ説ク。抑牛痘

ノ能力ハ。人ニ種ルキハ其氣先ツ其附接シタル
 處ニ傳染シ。不日ニシテ全身ニ及フ。其後其種タ
 ル處ニ於テ再ヒ他人ニ移シテ同功ヲ奏スヘキ
 性ノモノヲ生スルナリ。故ニ一度ヒ牛痘ヲ種エ
 發シタル其痘汁ハ又他ニ種テ同功アリ。是レ人
 痘ヲ種エ。其發シタルモノヲ取テ又他ニ種テ同
 功ヲ奏スルカ如シ。牛痘モ斯ノ如ク一度ヒ牛ヨ
 リ取テ種エ發シタル其膿汁ハ。段々ニ是ヲ數百

人ニ移シ種テ聊モ功ヲ失スルコトナク同功ヲ奏
 ス。實ニ疱瘡ヲ免ルノ神功ヲ具有スルモノナリ。
 既ニハノベル按スルニ地名ノ醫ニ其微候ヲ著シタル
 モノアリ。又「按スルニ人名」ト云フ者。是
 ヲ施シ試タル例ヲ記シタルモノアリ。今ハ既ニ
 開ケテ新規ヲ信セサル頑強ノ老人ト雖。氏。人痘
 ハ種ニヘカラス。牛痘ヲ種エスンハアル可カラ
 サルモノナリト口ニ唱フルニ至レリ。諳厄利亞。

獨逸都國ノ村民マテモ專ラ牛痘ノ種法ヲ信シ。他人ノ誹リヲモ聞カスシテ頻リニ用ユ。此徒ハ種ルニ臨テ何ノ藥用モナク隨意ニ行フ。然レモ猶其功ヲ得ル故ニ益此法ヲ尊信ス。況ヤ正理ヲ辨識スル博識ノ徒ニ在テハ焉シク疑フコトアラヤ。

種法

種法許多アリト雖モ。其中ニ於テ最モ容易ニシ

テ痛少ナク。誤ツコトナキ信用スヘキノ法ハ。葉鍼又ハ尋常ノ鍼頭ニ最モ新鮮ノ牛痘漿ヲ附ケ取テ。是ヲ以テ小兒ノ肘ノ上部。肩ノ下ノ處ニ於テ。血ノ出ルカ出サルノ間ニ。其處ノ皮ニ一指橫徑ヲ隔テ。二個處。或ハ三個處ヲ甚々輕ク刺ヘシ。但シ左手ニテハ小兒ノ肘ヲ握リ皮ヲ下ノ方ニ向テ引張ルヘシ。而後痘漿ノ附タル鍼頭ヲ以テ右ニ謂フ如ク。表皮ヲ肩ノ方ニ向テ能ク痘漿ノ内

ニ染ム様ニ輕ク刺スヘシ。其刺シタル鍼頭ヲ指ニテ押ナカラ静ニ抜去ヘシ。殊ニ鼎足ノ如ク三處ヲ刺ヲ最モ良トス。痘漿能ク肉中ニ染ムナリ。但シ其中ノ一處ニ痘ノ微ヲ顯セハ十分ニ傳染シタリト知ルヘシ。此外ノ種法ハ不佳ノミナラス却テ害ヲ引出スヲアル故ニ爰ニ贅セス。

牛痘漿ヲ取用スル時期

牛痘ヲ種テ發シタル痘漿ヲ他ニ移シテ誤タス。

功ヲ奏スルノ期候ヲ試ルニ。發シテ後第六日ヨリ第七日ノ間ヲ良トス。其頃ハ痘粧透明ニシテ十分ニ水ヲ含ミタリ。此時ニ其痘漿ヲ取テ他ニ移スルハ必ス誤ツコナシ。熟煉ノ醫ハ第幾日ト日ヲ限ルコナク。痘ヲ見テ其候ヲ察シ是ヲ取用ス。總テ十分ニ起張シ。痘ノ縁高ク。正中凹ク。其周邊淡紅色ナル時ヲ良トスルナリ。時過テ已ニ灌膿ノ頃ニ至ルモノハ用テ功ナク。勞シテ益ナシ。

唯其刺シ種タル處ノミ少シク常ヲ失シテ見ユ
レ凡。是レ亦忽チ愈ユルナリ。斯ノ如キハ流行ヲ
防クニ足ラス。

痘漿ヲ貯ル法

痘漿ヲ貯ルニハ其氣ノ脱セサル様ニスルヲ肝
要トス。動モスレハ腐敗シテ其氣變シ且脱スル
ナリ。是ヲ貯ルニハ小キ硝子板二片ヲ取り。自註。
ノ片面ハ中ヲ小ク窪メ。又新鮮ナル痘漿ヲ海綿。
其一ハ両面共ニ平ニシテ。

或ハ綿織糸ニ染ミ込セタルヲ其窪ミタル中ニ
納メ。今一片ノ硝子板ヲ蓋トナシ。少モ氣ヲ漏サ
ス。且外氣絶テ入ラサル様ニ堅ク結ヒ密封シ。其
上ヲ松脂蠟或ハ「ラ」キル瓊瓊按スルニ「ラ」キル
長崎ノ通語ニシテ「ア」クノ誤リ轉シタルナリ
原名「セ」ケル「ア」クノ紅蠟ト譯スルモ。西洋
常ニ封印ニヲ以テ塗ルヘシ。七八日ハ保ツナリ。
又痘漿ヲ右ノ硝子板ノ凹所ニ納レ少シ乾シ。前
法ノ如ク又一片ノ硝子板ヲ蓋トナシ。内外氣ノ

通レ漏レサル様ニスル片ハ。三月余ヲ經ルトモ
 其功ヲ失スルコトナシ。是ヲ用ントスル片ハ白湯
 或ハ唾液。或ハ血ヲ以テ其乾漿ヲ溶キ其液ヲ鍼
 頭ニ附テ法ノ如ク種ルナリ。或人ハ是ヲ貯ルニ
 一種ノ針ヲ用ユ。其製一端ヲ黄金ニテ偏平ニシ
 テ中ニ溝ヲ穿テ。是ヲ以テ痘漿ヲ抄ヒ取り。其針
 ノ一端ヲ「コロツプ」瓊按スルニ「コロツプ」ハ長崎
 ノ通語ニシテ。原名「ギル」西
洋常ニ「フラスコ」ナトニ挿シ。是ヲ小硝子壺ニ納
ノ栓ニスル口ホナリ。

テ貯ル者アリ。予等此法ニテ貯タルモノヲリン
 テリナヨリ得テ試ルニ其氣失シテ功ナシ。是ヨ
 リハ痘漿ヲ綿織糸ニ浸シ長サ五六分ノ小キ硝
 子壺ニ納メ密封シテ貯フル法アリ稍勝レリト
 ス。是ニテハ其功速ニ脱失スルコトナク二三月ハ
 保ツヘシ。

牛痘功ヲ奏シテ發スル諸症ノ順次

牛痘ヲ種テ第一日第二日ハ鍼刺ノ痕ノミニシ

テ其處少モ紅色ヲ顯スヲナシ第三日ニ至テ始
 テ種タル處ノ周邊微紅色ヲ見ハス。然レ凡最モ
 壯健ノ小兒ハ時トシテハ種タル翌日ニ其周圍
 微紅色ヲ生スルヲモアリ。第四日ニハ種タル處
 ニ淡紅色ノ小水泡ヲ發ス。此水泡ノ正中ニタシ
 カニ見ヘ難キホドノ凹ノ處アリ。是レ真ノ牛痘
 ノ傳染シタル微ナリ。第五日ニハ其小泡少シ大
 ニナリ。周縁高ク正中ノ凹ナル處能ク見分ツヘ

シ。斯ノ如キハ種痘ノ勞空シカラス十分ニ功ヲ
 成シタルモノト知ルヘシ。第五日ノ朝ヨリハ手
 ニ熱ヲ發シ。夕ニ至テハ全身熱ヲ發シ。發汗シテ
 顔色漸ク青白色ニナリ。眼下ニ青色ヲ見ハス。ト
 アリ。既ニ此等ノ症ヲ發スルニ至ルハ痘漿十分
 ニ熟シ即チ取テ他人ニ種ヘキノ徵候ナリ。第六
 日ハ痘其前日ヨリ張大ニシテ。正中ノ凹處尚甚
 シ第七日ハ痘尚前日ヨリ張りテ。其大サチエチ

エウ井ツ按スルニノ如ク。質透明ニシテ色真紅ナリ。且泡内ノ痘漿透テ能ク見ルヘシ。自註。予數試ルニ系弱ナル粘液質ノ小兒。或ハ虚瘡ノ小兒ハ。本文ニ所謂諸症ノ發出。痘ノ起張紅色等ノ發スル日限。總テ壯健ノ小兒ヨリハ遅ク。又壯健ノ小兒ト雖凡極寒ノ時ハ。本文ニ謂フ所ヨリハ總テ後レルナリ。此第七日ヨリ第十一日マテハ痘漸ク張大ニナリテ。痘漿益透明ニナリ。痘心ノ凹處モ漸ク張テ高クナリテ。終ニ見ヘ分タサルニ至ルナリ。痘ノ近邊周圍ハ自カラ光澤ヲ發シテ紅色ヲナス。

其紅色ノ處漸ク廣カリ。終ニハ徑二三寸ニ及フコアリ。又或ハ全肘共ニ紅色ヲ發スル者モアリ。其紅色ヲナシタル處ハ少ク腫テ堅クシテ熱アリ。脇下ノ堅キ所按スルニキモ亦腫テ痛ヲナス。右ノ諸症ノ外ニ尚一二夜ハ安眠ヲ得ス。發汗顔色青色。元氣弱ク。食ヲ好マス。咳ヲ發シ大小便減少スル等ノ症ヲ發ス。此諸症ハ小兒ノ強弱ニ拘ラス共ニ同ク發シ。二日ノ内ニ悉ク去リ。第十二

日ニハ痘邊ノ紅色少シク減シ。痘ノ正中ニ痂ヲ生ス。人ニ因テハ已ニ第十一日ヨリ斯ノ如クニ變スルモノアリ。第十三第十四日ニハ痘色濃黄。或ハ黑色ニ變シテ其痂堅クナル。第十五六日ノ中ニハ顔及ヒ肘。其外全身ニ先ノ尖リタル小瘡ヲ發ス。此小瘡ノ邊微紅色ヲ見ハス。二日ヲ過レハ其邊ノ微紅色消散シテ。蚊ノ刺シタル痕ノ如クニナル。時ニ因テハ大サ圓利針頭

按スルニ未
タ詳カナラ

スノ如キ小痂トナルヲモアリ。是レ亦二三日ヲ過レハ自カラ愈ユ。此小瘡人毎ニ發スルニアラス。又真ノ牛痘ノ微ニモアラス。其人ノ質ニ因ルナリ。又人ニ因テハ此小瘡至テ早く。第六七日ヨリ發スルヲモアリ。是カ發スト雖疔痛ヲ發シ。或ハ別ニ症ヲ發スルヲハ絶テナシ。若シ此小瘡數日消散セサルハ醫ニ託シ。年齢ニ隨テ多少ノ甘汞丹ヲ用ヒシムヘシ速ニ治ス。若シ醫ナク此

藥ヲ得ルコト能ハスンハ。家ニ貯フル輕キ下劑ヲ用テ良ナリ。

牛痘ヲ種テ發シタル痘ノ真假ヲ見分ツ法人痘ニ真假ノ二種アリテ是ヲ混スルコトアリ。若シ假痘ヲ種ルキハ又後ニ自然流行痘ヲ患ルナリ。牛痘モ又是ト同シク真假ノ二種アリ。故ニ種テ發シタル痘ノ真假ヲ見分ツコト肝要ナリ。即チ其真假ノ痘徴ヲ左ニ辨別ス。

真性ノ牛痘ハ種テ後漸々ニ外發ス。第三日マテハ痘氣傳染シタルヤ否ヤ。人コトニ必定知レカタシ。

假性ノ牛痘ハ是ニ反シテ。種タル處既ニ翌日ハ少ク紅色焮熱ヲ發ス。

真痘ハ第六日ヨリ第十二日ノ間ハ輕キ寒熱ノ往來アリ。是レ種タル痘氣全身ニ滿チタルノ徴候ナリ。

假痘ハ寒熱既ニ翌日ニ發シ。且其一日ノミニシテ去ル。是レ痘氣唯其種タル處ノミニ在ルノ徴ナリ。

真痘ハ第八日ヨリ第十一日ノ間ハ。痘邊周圍紅色光澤アリテ急ニ癒ルヲナク。漸クニシテ消散ス。

假痘ハ痘邊周圍ニ紅色ヲ發スルヲ絶テナシ。若紅色ヲ發スルヲアルモ。第三日第四日ノ内ニ在

テ速ニ消散ス。

真痘ハ種テ第十四日。第十五日。第十六日ヲ經ルニアラサレハ平愈セス。

假痘ハ右ニ反シテ。第六日マテノ内ニ悉ク乾テ平愈ス。

真痘ハ疱瘡ノ形狀ヲ顯シ。第五日ノ内ニハ痘ノ正中凹陷シ。其縁端高ク起張ス。

假痘ハ絶テ疱瘡ノ形狀ナク。初ヨリ膿ヲ生ス。又

人ニ因テ痘邊ノ紅色。小瘡ノ起發。寒熱ノ往来一
同時ニ混交シテ發スルコトアリ。

真痘ハ第十一日マテハ。痘内ニ水液滿テ明カニ
透見ス。

假痘ハ痘内ノ液。初ヨリ膿ニ似タリ。

真痘ハ甚シク膿ヲ生スルコト始終ナシ。

假痘ハ時トシテハ數日膿ヲ保ツコトアリ。又能ク
一月間モ其膿絶サルコトアリ。

真痘ハ其正中ヨリシテ痂ヲ結ヒ始メ其色恰モ
黒漆ノ如シ。

假痘ハ其縁端ヨリシテ痂ヲ結ヒ。其色黄色ナリ。

凡ソ痘瘡。痘ヲ謂フ麻疹ヲ種テ少モ發セサル

コトアルカ如ク。牛痘ヲ種テモ亦發セサルコトアリ。

如何トナレハ第一ニハ痘ノ種空氣ニ中リタル

モノカ。或ハ久ク時日ヲ經タルモノカ。或ハ其他

ノ障碍ニ由テ其氣脱失シタルカ故ナリ。第二ニ

ハ性質ニ因テ痘氣ノ感セサルモノアリ此二ツ
ノ所爲ニ因テ唯其種タル所ノミ少シク容子ヲ
變シテ痘氣全身ニ満スレテ功ヲ奏スルナキ
モノアリ斯ノ如キハ自然流行痘ヲ防クニ足ラ
ス故ニ後再ヒ良善ノ鮮漿ヲ撰テ種ヘシ其再種
スル片ハ痘漿多ク傳染シ強ク焮腫スル様ニ表
皮ヲ初ヨリ少シ深ク刺スヘシ又天稟虚弱ナル
カ或ハ知覺感動過鈍ナル性質ニシテ種痘傳染

セサルモノアリ斯ノ如キ人ハ預メ考ヘ良醫ニ
託シ其妨碍スルノ因ヲ除テ而後ニ痘ヲ種ヘシ

魯西亞牛痘全書卷之下終

--	--	--	--

魯西亞牛痘全書附錄

近頃世間ノ俗醫等妄ニ洋痘ヲ行フト雖凡其法
 ヲ審ニセス其術ヲ精クセス鮮漿ヲ採テ之ヲ施
 一ヲ知ラス唯結痂ヲ取テ之ヲ種ルヲ法トス其
 種ルヤ膏ニ一回ノミナラス再三之ヲ種ユシカ
 ノミナラス十顆二十顆ヲ接シテ而ノ一二顆ヲ
 出セハ以テ足レリトスルモノアリ又ハ痘靨ヲ
 袖ニシ妄ニ嬰兒ニ接シ種後ノ真假ヲ觀察スル

一ナシ。多ハ是レ假痘ヲ出シ。再ヒ天行痘ニ罹ル
 モノアルヲ聞ク。是此等ノ人ハ唯洋痘ヲ借テ以
 テ利ヲ射ノ階トナスノミ。嗚呼は無藝ノ妄人等
 天下後世嬰兒ヲシテ痘難ニ罹ラス。永ク壽域ニ
 登ラシムルノ神術ヲ以テ土塊ノ如クナシ。此道
 ヲ壅塞スルヤ。憎ムヘキ是ヨリ甚シキハナシ。戒
 スンハアル可カラス。
 盖シ天下ノ事物習見スルモノヲ以テ常トナシ。

罕見スルモノヲ以テ怪トナスハ世人ノ通情ナ
 リ。然リ而シテ洋痘ヲ尤甚シトス。洋痘ノ術古ヨ
 リアルヲナシ。故ニ博學通儒ト雖モ。目未タ觀サ
 ル所。耳未タ聞カサル所。盡ク信シテ疑ナキニア
 ラス。信スルモノ十ノ一ニシテ。疑モノ十ノ九ニ
 居。夫洋痘ノ人ヲ欺カサルハ常ナリ。怪ニアラサ
 ルナリ。其疑モノハ怪ナリ。常ニアラサルナリ。人
 其理ヲ悟ラス。洋痘ヲ疑議スルモノハ何ソ愚ノ

甚レキヤ。醫モ亦是ヲ思ヘシ。苟モ濟生ニ志アルノ徒ハ。一雙ノ活眼ヲ開キ。慎テ真假ヲ辨識シ。法ニ據テ栽種ヲ行ヒ。誤テ咎ヲ洋痘ニ歸スルコトナク。世人ノ讒言ヲ受ルコトナク。利ヲ釣ノ餌トスルコトナク。衆ヲ濟ノ正路ヲ失コトナクシハ。天下萬世ノ嬰孫ヲシテ一夭札ノ災ナカラシメン。此則予ノ厚望スル所ナリ。

牛痘ハ苗ヲ擇ヲ以テ緊要トナス。嬰兒稟賦壯健

ニシテ。瘡疹其他ノ病患ナキ者。苗ヲ取ノ定期ヲ按シ。微ヲ昭シテ真痘ヲ擇ミ。顆粒大ニシテ漿水満足ノモノニ就テ。痘面ノ周圍ヲ痘鍼ヲ將テ輕ク剔破シ。中央硬靨ヲ掲ケ。若シ漿水白濁。或ハ黄粘ナルモノハ。鍼尖ヲシテ兩三次濁漿ヲ點去セシメ。鮮漿湧出。清澄白露ノ如ク。一粒流散セサルモノヲ俟テ。之ヲ種ルヲ最モ妙トス。必シモ怠慢スルコト勿レ。

痘ヲ種ルノ日。或ハ種テ未タ滿漿セサルノ間ニ於テ。雷鳴地震ノ若キ。大氣ノ變動アルハ。或ハ感傳セス。或ハ假痘ヲ發シ。或ハ半途ニシテ萎縮シ癒ルイアリ。西洋書中未タ此說ヲ視ス。其理詳ナラスト雖凡。是予カ親ク實驗スル所ナリ。醫宜ク此ニ注意シテ以テ其詳ヲ得ヘシ。

牛痘ヲ種ル鮮漿ヲ取ヘシ。焦靨ヲ傳フヘカラス。崎嶼ニ於テ靨種真痘ヲ出スカ如キハ。幸ナリト

雖凡是ニ則トル可カラス。余鮮漿ヲ取テ栽種スルモノ數百人。未タ假痘ヲ出スモノヲ見ス。偶焦靨ヲ採テ試種スルモノ十有五人。假痘ヲ出スモノ八人アリ。又靨種ヲ專ニスル者アリ。多ハ是レ假痘ヲ發シ。補種ヲ為スシテ遂ニ天行痘ニ罹ルモノ往々コレ有ヲ聞ク。慎マスンハアル可カラス。

但近處ニ施シ。人ヲ以テ人ニ傳フヘシ。遠處ノ如

キハ鮮漿ヲ傳へ難シ。若シ止ムトヲ得サルニ遇ハ。好漿ヲ採リ法ニ依テ蓄藏シ。速ニ之ヲ傳ルルハ數百里ト雖モ能ク留ムヘシ。是レ亦輕忽ニスルコト勿レ。

余玻璃家ニ命シテ痘漿ヲ蓄藏スル器ヲ製作セシム。西洋硝子板最厚ク其厚サ一分余琢磨精工ヲ極ル品ヲ擇ミ。方寸二片ヲ取り。其一片中央ニ徑リ三分許リ。深サ五厘許ノ圓形凹ヲ造ルモノナリ。佳

苗ヲ採リ之ニ藏シ合セテ緊結シ。番瀝青ト白蠟トヲ煉和スルモノヲ用テ四圍ヲ繡封シ。是ヲ試ルニ數日ヲ貯テ能ク漿ヲ留ム最妙。此器ヲ造ル宜ク西洋琢磨ノ硝子板ヲ用ユヘシ。我邦琢磨スルモノハ精エト雖モ其用ニ耐ヘス。今春遠江ノ一醫生ヲシテ此法ニ據テ痘漿ヲ傳ヘシム。其苗ヲ取テ種ルモノ皆良真痘ヲ發シ。傳種シテ百余人ニ及ヒ。一モ假痘ヲ出スモノヲ見スト云フ。

痘ヲ種ル時孫童ノ衣衫兩袖ヲ膊上ニ捲揚小紐
二條ヲ取り前後各一條ヲ兩袖ニ穿テ各緊ク結
束シ。左手ニテ孫童ノ臂ヲ執定シ伸縮セシメス。
右手ニ痘鍼ヲ將テ法ノ如ク苗ヲ點シ種工畢テ
兩臂ノ血點ステニ乾ヲ俟テ徐ニ紐ヲ解キ衣袖
ヲ垂下シ。必シモ其血點ヲ衣衫ニテ拭去ラシム
ルヲ勿レ。

我邦往々牛痘書ノ作アリ。就中杉田氏。濟生備考

ノ説ヲ正トナス。初學輩本書ト參考セハ洋痘ノ
術ニ於テ遺漏ナカラシ。

魯西亞牛痘全書附錄終

牛痘全書	自然相瘡								
------	------	--	--	--	--	--	--	--	--

利光仙翁著

安政二乙卯年新刻

江戸書林

浅草茅町二丁目
須原屋伊八



卷之二
卷之二
卷之二
卷之二
卷之二
卷之二
卷之二
卷之二
卷之二
卷之二

4520

11

